

Ⅲ 花き

実況

1 キク



写真1 雪まつり

奥越地区では11月17日に収穫がほぼ終了した。露地コギクは「うんかい」、「水車」(白)、「かな」(赤)が11月上中旬に収穫された。11月の出荷数量は日量で30～50箱程度。価格は10月よりやや安い。JAテラル越前キク部会の親株ハウス定植は10月26日、古茎切りが11月30日に行われた。

坂井地区の寒ギクは「雪まつり」等の寒菊は草丈60～70cmで12月上中旬開花。あわら市田中中の圃場では、黒さび病が中発生。オオタバコガの食害を受けた株は草姿が乱れている(11月17日調査)。

福井市二日市のコギクは、草丈100cm前後で収穫中である。病虫害は黒さび病が中発生。ハダニ類の食害痕がみられる。

二州地区(11月17日調査、昨年は14日調査)の11月咲露地ギクは「花の里」が草丈84.6cmで膜切れ(草丈64.2cm、蕾径7.1mm)、「金うさぎ」は77.8cm、立弁であった。一部に霰による傷みがみられた。

若狭地区の7月中下旬定植の寒ギクは11月14日調査(昨年11月20日調査)で、「冬一番」が草丈85.4cm、花蕾径6.9mm(66.2cm、蕾径4.8mm)、「寒桜」72.2cm、4.3mm(53.0cm、3.7mm)、「新年の美」101.6cm、蕾径2.9mm(89.2cm、2.9mm)と昨年並みかやや早い。また、本年は定植後の活

表 1 暗期中断の有無が開花に及ぼす影響

品種名	暗期中断の有無	開張長(cm)	開花日	切花長(cm)	葉数	莖径(mm)	切花重(g)	花数	花径(mm)
雪まつり	無	9.5	12月27日	90	54	5.5	48	36	40
	有	9.1	12月19日	92	52	5.2	53	30	38
寒林	無	9.5	12月25日	91	37	5.5	71	27	34
	有	9.2	12月20日	95	40	5.4	82	26	33
冬山吹	無	10.3	12月25日	92	31	5.1	42	14	31
	有	8.8	12月21日	91	33	4.6	42	14	35
夢月花	無	13.4	1月16日	114	36	5.5	77	40	25
	有	11.9	12月31日	111	39	5.4	74	62	19
新年の花	無	21.5	2月22日	140	47	5.4	112	85	41
	有	18.7	1月23日	133	55	5.7	98	57	38
花化粧	無	13.0	12月23日	94	31	5.4	58	37	34
	有	11.8	12月17日	94	35	5.0	60	27	37
冬の旅	無	11.3	12月29日	104	44	5.6	70	52	26
	有	11.1	12月17日	108	47	5.7	87	54	29
寒桜	無	11.8	12月27日	91	39	5.6	57	28	39
	有	11.3	12月23日	92	41	5.7	68	27	34
雪かすみ	無	14.3	1月5日	108	49	5.1	71	162	19
	有	12.2	1月6日	112	52	5.1	65	142	15

定植日：2010年7月27日、暗期中断：8月10日～10月14日（2010年 坂本ら）

着不良が多くみられた。病虫害は、アザミウマ類が少発生。

11月咲電照作型も「白馬」94.8cm、開花中(110.0cm、立弁)、「かおり」97.0cm、開花終了、「おちば」は58.6cmで開花中(60.6cm、膜切れ)と昨年より開花が早い。

2 スイセン

越前町の促成栽培は(11月16日調査では)10月11日から始まり、市場出荷は11月16日から始まった。

露地栽培は11月7日調査で、花茎長11.1cm(昨年11月8日調査で10.4cm)。出荷は(11月20日現在)促成を含めて約9.4万本で、一昨年並みである。

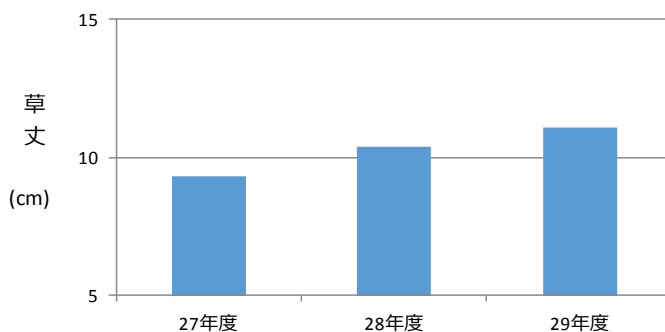


図1 年度別花茎長の推移(11月5～8日調査)

3 ユリ

坂井地区(11月17日調査)では、9月21日に定植された「ブラックアウト」が草丈65cm、蕾数3～5で11月末から開花見込。オリエンタル系の「シンプロン」は、二重被覆、無加温栽培(写真3)。



写真2 エルディーボ(9/18定植)

4 トルコギキョウ

あわら市の7月下旬～8月上旬定植のトルコギキョウは11月中旬ではほぼ収穫が終了し、翌春収穫の二度きり作型を行う予定である。八重咲品種はややボリューム不足の傾向があった。ハスモンヨトウ、炭そ病が少発生。

南越地区では、11月15日調査で9月中旬播き、11月13日～20日定植の「ボヤージュグリーン」、「一番星」等が本葉2.5～3対(昨年度「ボヤージュグリーン」、「一番星」「ロジーナブルー」、「バルカンマリン」で本葉3対である)。



写真3 シンプロンの栽培状況

5 ストック

あわら市では、8月上旬直播で収穫終了。8月中旬直播が11月下旬で現在収穫中。セル苗移植、7月28日播種で収穫初期。

出荷量は日量8～15ケース。病虫害はシンクイムシ類、コナガ、菌核病少発生。福井地区では11月16日調査で、スプレーストック草丈7.5～9cm(昨年8cm、播種9月中旬、定植10月上旬)。

南越地区の11月18日(昨年16日)調査のカルテットシリーズは8月22日から9月20日まで、段播

きされている。8月22日播種作型で、ピンチ済み草丈53cm、12月から出荷予定。そのほかの作型はピンチはまだ未了で、草丈42～16cm、蕾径3～8mmである。

二州地区では台風による冠水被害が、多発。

若狭地区では11月17日調査（昨年11月14日調査）で、9月上旬直播で、「カルテットシリーズ」が草丈35～40cm（昨年草丈30cm）、10月下旬直播で双葉展開中。病虫害では、メイガが少発生である。

6 ハボタン

福井市東郷地区の切り花用ハボタンは、11月16日（昨年16日）調査で、8月初旬に定植された「晴姿」が57～78cm(75cm)、「初紅」が65cm(79cm)。出荷開始は12月上旬。福井市二日市の8月上旬に定植された「晴姿」が49cm(54cm)であった。



写真4 フリージャの出芽

7 その他

あわら市で8月定植二度切栽培の金魚草(アスリート系、8月下旬定植)は11月中旬で出荷はほぼ終了。坂井市春江のフリージャは草丈15cm程度(写真4)。坂井地区のデルフィニュームは10月定植葉数5枚前後で、一部日焼け、ネキリムシの食害がみられた。

対策

1 ハウスの雪害防止

冬期間利用しないハウスは、栽培終了後できるだけ早く被覆資材を除去する。

冬期間利用するハウスは、降雪前に雪害防止対策を十分整えておく。大雪警報・注意情報等が発令された場合には、直ちに対応し被害防止に努める。

(1) ハウスの補強

積雪によるハウス倒壊を防止するため、丸太や竹等をハウス内に持ちこみ準備しておき、降雪が予想される場合は、3～4m間隔で支柱を立てハウスを補強する。

また、積雪荷重により肩部が左右に広がると倒壊しやすくなるので、ワイヤー等で引き付けておく。ワイヤー間隔が約6m以上になると、ワイヤー間中央部ではその効果がほとんどなくなるので、支柱と同等の間隔で、支柱の間に張ることが望ましい。



(2) 屋根雪の滑落促進

屋根雪はハウス内温度を4℃以上にすると、ほとんどの場合滑落するため、加温機やストーブによる加温を積極的に行う。また、内張りカーテンがある場合は、カーテンを開放し天井まで暖かい空気が行き渡るようにする。

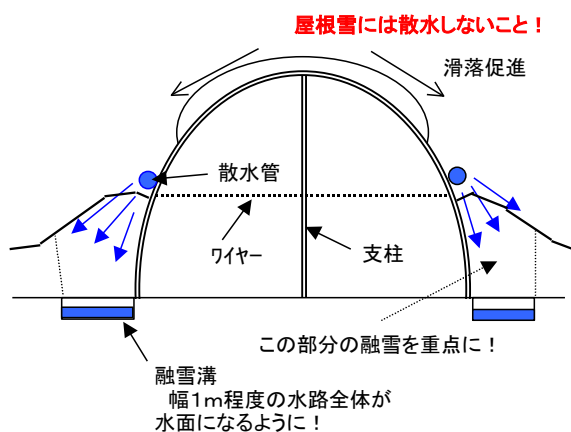
滑落しない場合は、手作業で強制的に滑落させ、屋根に雪を乗せたままにしない。特に、積雪による被覆資材のゆるみが直管パイプに引っかかって屋根雪の滑落を阻害するので、積雪が多くならないうちに人力で除雪しておく。特に、天窓は積雪しやすいので注意する。

(3) ハウス周囲の除雪

滑落した雪がハウスのサイド部に積もった場合は、早期の除雪と散水による融雪を行う。

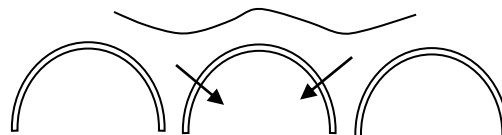
なお、屋根部まで積雪してから除雪する場合は、ハウス両側を均等に除雪するようにし、片荷重によるハウスの倒壊を防ぐ。

除雪機を用いる場合は、ハウス周囲を整理して除雪機の通路を確保しておく。なお、効率的に除雪を行うには、いずれも積雪が多くなる前から稼動することが重要である。



ハウスの雪害対策

ハウスの隣接間隔が狭い場合は、1棟おきに休作して被覆材を除去し、雪の捨て場を確保する



(4) 被覆資材を除去してあるパイプハウス

被覆資材を除去してあるパイプハウスでは、パイプ交点等に積もった雪が着雪し屋根一面に積雪するので、時々人力で雪を落としておく。また、ハウス肩部や腰部のパイプ等が積雪に埋没したままにしておくと、沈降圧によって変形、破損等の原因になるので、早めに掘り出しておく。



ハウスを覆うぐらいの積雪があった場合、肩部から除雪を始める

2 8、9月咲きギクの親株管理

(1) 親株の病虫害防除の徹底を図るため、1週間に1回の予防剤散布を励行する。苗床での防除は、面積も小さいので、薬量を少なく、回数を多くし、効率的に防除する。ただし、草丈が低い分、葉裏にかかりにくいので、丁寧に葉裏にかける。さび病等の病斑が隠れている場合があるのでよく確認する(写真5)。特に本年は黒さび病が多いため、兼商ステンレス等で防除する。



写真5 黒さび病と白さび病
親株の葉裏にみられる

(2) 越冬親株が過湿になると、株枯れや病害が多くなるので、灌排水に留意し、過湿にならないよう管理する。

(3) 親株の切除は12月中までには済ませ、冬至芽の摘心は1月下旬に地際部より2~3cm(葉3、4枚)を残して行う。折り取った茎葉はハウスの外に出す。特に防除前はハウス内の雑草を除去し、ダニ、アザミウマ等の隠れ場所をなくすようにする。

(4) 12月の親株切除後ただちに白さび病や各種病虫害に対する防除を実施する。特にダニ類やアザミウマ類はいったん生長点部分に入ると防除しにくいので、ていねいな散布を実施する。近年、紋々病(キクモンサビダニ)がみられるので、よく注意する。

3 スイセンの管理

(1) 灌排水管理 (ハウス温度管理)

圃場に停滞水がある場合は排水対策を実施する。ハウス栽培で土壌水分が少ない場合は、

灌水を行い、適切な水管理を行う。ハウスにあるスイセンでは日中は15℃程度になるように管理する。

(2) 収穫

花一輪2分咲きで適期収穫する。収穫後はすぐに水揚げを行い、しおれを防止する。

(3) ネットハウスは雪が付着するので、早めの雪対策を行う。

中柱として、パイプや孟宗竹、丈夫な垂木を3~4mおきに設置し、ジャッキなどで突っ張り、補強管理を行う(上部はハウスと連結すると良い)。ワイヤーなどでハウスの肩を引き付ける(積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため)。筋交いを補強する(建設時に設置しておく)。

4 トルコギキョウの育苗管理 (3~4月定植もの)

(1) 近年は稚苗定植から大苗定植に移りつつあるため、育苗期間を長めに設定し、苗を12℃以下の寒さにあてないように管理する(5℃以下の寒さに長期間当たると生長点が弱り、側枝が増加することがある)。その場合、セルトレイは200~288 穴で深めのものを使用する。

子葉展開後は灌水代わりに1週間間隔で液肥を施用するが、表土の一部にでも青ゴケ等がみられたら施さない。寒波が来た時も同様である。

(2) 10℃で5 週間程度種子冷蔵を行うことで、発芽勢がよくなり、開花が促進される品種が多いので、早生品種をまく場合は冷蔵処理を前もって行う。

(3) 好光性種子であるため覆土はせず、底面吸水かミスト灌水を行う。ペレット種子はペレット資材を種子から取り除くために軽く力を入れて、ペレットの被膜を割りながら播く。発芽後は底面灌水をやめ、細かいジョウロ等で頭上灌水する。また、灌水の水は冷たいものをさけ、温度を上げるように、溜め水したものを使う。

(4) 育苗温度は昼温20~25℃、夜温15~18℃として、夜間はトンネル等で保温する。場合によってはトンネル上に毛布やコモで保温する。

5 ストックの栽培管理

(1) 気温が下がってくると施設を閉め切りにすることが多くなり、多湿となりやすい。その結果、軟弱徒長となり、灰色かび病や菌核病といった病害が発生しやすくなる。厳寒期でも日中、晴れた日にはこまめな換気を行い、病害が起りにくい環境づくりに努める。

晴天が続かず、発生が懸念される場合は、早朝換気を行い、低温低湿度の空気を施設内に導入し、昼間昇温時の湿度を下げる工夫を行う。

(2) 灰色かび病や菌核病に対する治療剤は花き類やストックでは水和剤が多く、生育後期は葉斑による汚れが問題となるため、生育前半までにポリベリン水和剤1000 倍などで防除に努め、生育後半は汚れが目立ちにくいフロアブル剤を使用する。アフエットフロアブル2000 倍が利用できる。